

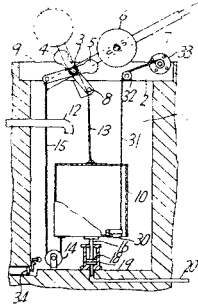
起伏堰扉の伏倒操作装置

特公 昭 32-4231

発明者 島岡信治郎

水槽(10)が水路の堰扉上流側へ通ずる導水管(12)の管端下側に設けられ、水槽の上方には吊上腕杆(4)と引下腕杆(5)と両腕杆の先端下側に、選択的に掛止される重錘(6)付挺杆(7)とが同一軸(3)に枢支されており、水槽上部と吊上腕杆の先端とをロープ(13)で連結し、水槽下部と引下腕杆の先端とを水槽下方の固定導輪(14)をへてロープ(15)で連結し、さらに水槽が下降したとき、その動作によつて堰扉の起立支持(例えば次の特公昭 32-4232号に示されているようなもの)が除かれて、堰扉が伏倒するように構成されている。1コ of 挺杆の重錘が手動操作の引下重錘の作用と、自動操作の平衡重錘の作用との両作用を行う。

図-1



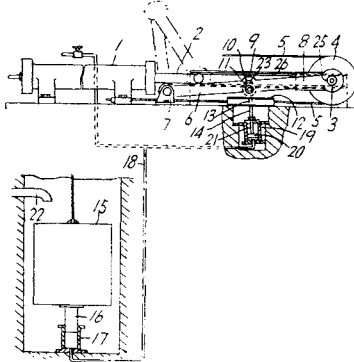
起伏堤扉の起立支持装置

特公 昭 32-4232

発明者 島岡信治郎

これは、一端が堰扉に連結されたロープ(5)の他端が堰扉起立用油圧シリンダー(1)のピストンロッド(2)の先端に関連して、ピストンロッドの往復動に応じてロープが伸縮されて堰扉が起伏するようになっており、シリンダーの近くに一端を枢支(7)した連結杆(6)と、ピストンロッドの先端軸(3)に一端を枢支した連結杆(8)とを、ピストンロッドに添わして、各端部の縦長孔(10)を合わせ、これに支持ピン(11)をはめて連結しこの連結部の下側に支持台(12)を設け、ピストンロッドがシリンダーから押出されて往動し、堰扉が起立し、両連結杆が真直状態になり、その連結部下側が支持台に当接したとき、支持ピンが自重により縦長孔の下部に自動的に偏心移行して、シリンダー内の油圧が除かれて

図-1



も、この両連結杆の突張りによつてピストンロッドの復動を防いで、堰扉の起立状態を維持するようにし、さらに例えば水槽(15)の下降動作によるシリンダー(17)内の油の圧出が、シリンダー(19)のピストンロッド(21)を上方に押出して突上ピン(14)に作用する等の手段により、前記支持ピンを縦長孔の上部に偏心移行させて、両連結杆を上方に屈折可能な状態にして、堰扉にかかる水圧によつてピストンロッドが復動できるように構成したものである。

自然水、飲用水、工業用水等の浄化方法

特公 昭 32-4237

発明者 秋谷七郎

この発明は、アルミニウムを主成分とし、クロム、銅、鉄、亜鉛等を少量配合した合金(ジュラルミン)の片、板、塊等をコロイド状の珪酸または珪酸塩を含有する原水中に浸漬して、膠質物質を沈殿除去するようにしたもので、上記の合金の片、板、塊等に具有される分極電位差により帯電して、水中に分散しブラウン運動をしているコロイド状の珪酸、珪酸塩等は中和し、凝集し、沈降するという。

暗渠敷設方法

特公 昭 32-4685

発明者 斉藤長一

複数の単位管を順次整列させて適当長さの暗渠管を構成し、この暗渠管の外部または内部に、気体等の流体を封入することにより膨脹し、これを取去ることにより収縮する加圧体を添着し、加圧体に流体を封入して各単位管を整列状態において結合し、これを溝孔内に敷設定着させ、次にこの整列状態のまま加圧体から流体を取り去つて、加圧体だけを引抜くようにした。

暗渠敷設装置

特公 昭 32-4686

発明者 斉藤長一

適当に膨脹収縮可能で、気体等の流体の圧入排除自在の加圧体を一体として合製するか、または別体として添加した曳行体を、

図-1

暗渠管の外部または内部に着脱自在にして、加圧体に流体を圧入充填することにより、暗渠管体と曳行体および加圧体とを緊密に結着し、加圧体より流体を除去することにより、曳行体および加圧体を暗渠管体より離脱しうるようにしたものである。図面で(3)は暗渠管体、(5)は加圧体、(10)は曳行体を示す。